



加藤 元の



と暮らして
みませんか

3

さあ、待望の子犬がわが家にやってきました。飼い主として、どうすればよいでしょうか。

子犬を飼うのには生後60日前後が適しています。心身の成長が最も早い時期です。飼い主は、子犬が「社会化」、つまり人、動物、社会、何にでもよくならしてあげる必要があります。

ですから、かわいいからといって、睡眠、休息を妨げてはいけません。子犬が自発的に遊んでほしい、と寄ってくるようにしたいものです。犬は、不特定多数の人に心やさしくふれてもらうことで人間が大好きになるのです。そう仕向けるのがしつけなのです。

しつけは、難しいものではありません

しつけ

自発的に喜んでするように

ません。だれでもできる「おすわり」や「伏せ」「待て」「おいで」など、簡単なものを子犬が来た日から始めるようにしましょう。名前を呼んでアイコンタクト（お互いの目を見つめる）できたら一粒のごほうびをそのたびに与えます。犬はリーダーがいないと、心理的に落ち着かないものなのです。飼い主はボスではなく、常に良きリーダーになってやるのが大切なのです。

また、子供のしつけと同じで、しつけは「しかること」とは違います。ほめることから始めてください。これはおべっかではありません。ちゃんとよいことができたら、必ずほめてやることです。なにより大切なのは、犬が自発的に喜んで飼い主の愛情に応えるようになることです。

人と犬とは、心を開いてふれあうことで相互にいい影響を受けます。これが「ヒューマン・アニマル・ボンド」（人と動物との絆）の原理であり、科学的にも実証されています。

犬とのふれあいは、子供の教育や「社会化」にもいい影響を与えます。ペットとの暮らしは、家族の心を豊かにし、安らぎを与えてくれるのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長
日本ヒューマン・アニマル・ボンド・
ソサエティ会長）

《産経新聞2004年4月18日掲載》